

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和5年5月9日（火）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：黒川長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから5月9日の原子力規制庁定例ブリーフィングを始めます。

○黒川総務課長 報道官の黒川です。

お手元の広報日程に沿って説明をいたします。

まず、あしたの委員会の定例会ですけれども、この資料上は10時半からとなっておりますけれども、時間が変わることはほぼ確実で、何時になるか分からないのですけれども、恐らく13時からかなと思います。また確定したらお知らせします。

議題は6つあります。

1つ目が、ALPS（多核種除去設備）処理水の海洋放出時の運用に関する実施計画の変更認可ということで、これは2月22日の委員会で審査書をパブリックコメントにかけていたものですが、そのパブリックコメントの結果も受けて、今回認可を決定することになります。パブリックコメントは、提出意見が105件あったそうですが、審査書に大きな変更はありません。

議題の2つ目は、ALPS処理水の海洋放出に関するIAEA（国際原子力機関）の規制レビューの報告書の概要ということで、これは1月にIAEAの規制レビューが行われましたけれども、その報告書が5月4日にIAEAから出ましたので、その概要を報告するというものであります。規制委員会の規制に関しての問題点の指摘などは特になかったということです。

議題の3つ目ですけれども、高経年化の安全規制に関する検討チームの検討状況の報告ということで、これは4月26日の検討チームで、60年目以降の追加点検と設計の古さの2点について議論して、おおむねコンセンサスに達したという感じでしたので、この2点に関する考え方を改めて紙に整理しまして委員会の了承を求めるといったこととなります。

議題の4つ目ですけれども、令和4年度放射線性同位元素等取扱事業所における事故・故障等の評価ということで、これは例年この時期にやっているもので、RI事業所で事故が起こった場合に、規制委員会への報告が義務づけられていますけれども、昨年度に報告のあった事故などについて、その概要とINES（国際原子力・放射線事象評価尺度）評価の結果を報告するというものになります。

議題5と6は、委員の海外出張の報告で、委員長のカナダへのお出張と伴委員のパリへのお出張という2件のそれぞれ報告です。

あしたは非公開臨時会議もありまして、議題は柏崎刈羽の追加検査の状況の報告です。

2ページ、5月10日の(2)ですけれども、委員長の会見も14時半と書いていますけれども、これも恐らく変わります。時間はまだ未定ですけれども、夕方かもうちょっと早めかというそれぐらいの時間になると思われます。

次は、5月11日の(3)ですけれども、特定兼用キャスクに関する審査会合です。

議題は2つで、いずれも日立造船のキャスクの型式証明ということになります。議題の1つ目がPWR(加圧水型原子炉)のもので、議題の2つ目がBWR(沸騰水型原子炉)のものということになります。いずれも2月に前回の審査会合をやっていまして、そのコメント回答などということなんです。

次が、5月11日の(4)第1143回審査会合です。

議題は1つで、東海第二の設工認で、ハロンボンベの設置場所変更という案件の申請が4月7日にあったということで、その初回の説明ということになります。

次が、5月11日の(5)高経年化技術評価に関する審査会合です。

議題は2つで、1つ目は、島根2号機の30年目の評価ということで、前回1月19日で、その後、申請書の補正ができたので、その確認ということになります。

2つ目は、浜岡4号炉の30年目の評価ということで、前回2月19日に引き続いての評価結果確認をしていきます。

次が、5月12日の(6)ですけれども、第1144回の審査会合です。

議題は1つで、志賀2号機の敷地周辺の地質構造ということで、今回は敷地周辺の海域、海のほうということで、その点については今回が初回の会合ということになります。

説明は以上です。

<質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問をお願いいたします。御質問のある方は手を挙げてください。

よろしいでしょうか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。ありがとうございました。